第１回川里地域小中一貫教育校新設に係る
ワークショップ結果

開催日時	令和５年　６月　25 日（日）　9:00～12:00	
会場	ふるさと館　１階会議室	
出席者	ワークショップ参加者	21 名（参加者 18 名+付添いの子ども３名）
	市職員	鴻巣市教育委員会　教育総務課 ■松本課長　■飯島主幹　■新井主査　　■堀主任
	設計事務所	株式会社 桂設計 ■岡﨑、■中山、■鎌形、■田名部、■一木

１．開会
総合ファシリエーター：岡崎
開催時間：3 時間
配布資料：「川里地域小中一貫教育校新設に係るワークショップ資料」

２．挨拶
松本課長より開催の挨拶

３．担当者紹介
市職員紹介／桂設計紹介

４．事業スケジュール
開校までの事業予定の説明
現時点では令和 10 年度の開校を目指しているが、今年度の基本設計・基本構想の中でスケジュールを決めていきたいと考えている。（教育総務課）

５．候補地説明
既存中学校敷地及び周辺施設・周辺環境の状況説明（桂設計）

６．プロポーザル案紹介/事例紹介
ⅰ）プロポーザル案紹介
ⅱ）小中一貫校の事例の紹介
［参考事例］①瀬戸市立にじの丘学園

②岩国市立東小学校・東中学校
③松江市立義務教育学校玉湯学園
［桂設計物件］浦安市日の出南小学校

7．川里中学校の現状/校舎見学
A～C グループに分かれて既存川里中学校の現地見学（40 分程度）
既存校舎面積：約 4400 ㎡（S61 年建設）、体育館：約 1500 ㎡（S63 年建設）
敷地面積：約 34000 ㎡

8．グループワーク
ⅰ）6 人×3 グループに分かれて意見交換
ⅱ）テーマ 1「既存校舎の課題」
テーマ 2「小中一貫教育に期待すること」

9．発表

Aグループ（※発表シートに関しては別添参照）

①テーマ 1「既存校舎の課題」

〇駐輪場・駐車場
・駐車場は狭くて区分けされておらず、置ける台数が少ない。
・自転車置き場は老朽化しており、玄関への動線が不便と感じる。

〇バリアフリー
・校内の出入り口がバリアフリー化されていない。
・玄関にスロープはあるが、車椅子で各教室には行けない
・エレベーターがない。

〇インフラ整備
・古い、トイレが狭い、全体的に暗い、LED 化されていない、足元に小さい段差があって転びやすい。
・外トイレが充実していないので、校庭を使用する際は不便。

〇空調設備
・体育館が暑くなるので空調を設置してほしい。
・自分たちが子どもだった頃より気温が 2 度、3 度上がっているので、子どもたちのことを考えると全ての教室にエアコンを設置した方が良いのではないか。

〇セキュリティー・IT

・各教室にタブレット用の大きな充電器があり、狭い教室をさらに狭くしているように感じた。教室の見た目の印象も良くない。

・学校関係者でない者が学校に出入りするのに、教育委員会がいるとはいえ、学校の責任者が不在なのは問題ではないか。

〇部活動

・児童数の減少により、部活動も少なくなってきている。

・プール老朽化や授業日数を考えるとプール施設の必要性については、検討が必要ではないか。

・昔はサッカー部、野球部、テニス部、バスケ部、バレー部があり外で活動していたので、校庭に雑草がなかったが、今は外の部活が少ないので雑草がかなり生えていて景観が良くない。

②テーマ２「小中一貫教育に期待すること」

〇概要説明

・事前の情報が少なく、議論を交わすにも発言しづらい。小中一貫教育校について、丁寧に説明してもらいたい。

〇IT の活用（ソフト）

・鴻巣市では一人一台端末を取り入れ、ICT 教育についても力を入れていると聞いているので、プログラミング教育等についても期待している。

・リモート環境を整えて、国際交流等ができるのであれば、子どもたちの幅が広がるのではないか。

・専門の教員を配置して、教育を進めてほしい。

・教育内容の充実ということで１クラスに対する教員の数を充実させてほしい。

〇教室と職員室（ハード）

・小中学校が一緒にあると、死角が増えるのではないか。

・災害時の充実した設備について、ソーラー発電などを取り入れて欲しい。鴻巣女子高校にはソーラー発電から引ける電源があり、災害時にはソーラー発電からの災害用の電源が取れる。同じように電源が取れるのは安心だと思うので、ソーラー発電を付けてもらいたい。

〇その他（ソフト）

・小中一貫教育校ということで、中学生と小学生が一緒に活動できる授業等を取り入れれば、お互いに対しての、「面倒見てもらった、見てあげた」といった関係ができ、様々な感情が芽生えていくのではないか。

・スクールバスを使用するということなので、スクールバスについての教育や、乗り降りに関しての説明などを子どもたちにしてほしい。徹底して教育をしていかないと事故が必ずつながる。

〇その他（ハード）

・コミュニティースクールになることを想定するのであれば、施設の外部開放を充実してほしい。
・ナイター設備を設置してほしい。広田小学校にはナイターがあって夜間の活動が可能となっている。
・グラウンドゴルフ場も教育内容として有効活用できるのではないか。
・図書館については、複合化するのではなく、独立して残してほしいといという意見が多数ではないか。
・教育支援センターを残してほしい。
・特別支援教育はどうなるのか。

〇教育委員会への要望

・暗いとか、危険があるという現状の課題に対しては、5 年後まで先延ばしにできないので、今いる生徒の安全安心を考えて今から対応して欲しい。
・プールや体育館は、専門的な施設と、低学年用の 2 施設あったほうが良い。そうすれば学区外からも、施設利用を目的としてこの学校に行きたいという児童生徒が増えると思う。
・最終的には既存小学校が 3 校残る。災害対策など、何らかの形で校舎は残るのかもしれないが、跡地活用についても並行して検討してもらいたい。新設校ばかりに手を掛けていて、跡地利用の計画ができなかったという事では困る。

Bグループ（※発表シートに関しては別添参照）

①テーマ 1「既存校舎の課題」

〇バリアフリー

・廊下関係の意見として、渡り廊下がとにかく危険、スロープになっているがかなり勾配がきつい、廊下が狭い、清潔感がない。
・トイレ関係の意見として、洋式を増やして欲しい、バリアフリー対応にしてほしい、トイレが暗くて不安になってしまう。

〇設備（増やしたい）

・図書室を充実してほしい。
・IT 化や ICT 教育に適した設備になってほしい。たとえば、既存の机は狭いので

パソコン、教科書、ノートを置いたらいっぱいになってしまう。
・部活の人数と使用する場所について適した広さを確保してほしい。
・駐車場を確保してほしい。
・給食室を設置してもらいたい。
・教員の休憩室も必要ではないか。

〇残したいもの
・シンボルツリー、農園、グランウドゴルフ場。
・下駄箱の大きさをもっと広くしてほしい。

〇安全面
・いろんな場所が分かれていない。小中一貫になると、中学校３年生と小学校１年生が同じ場所で活動すること、児童生徒が自動車と同じ通学路を歩くというのは危険。
・土地が低いので、浸水等の危険、可能性がある。土地を高くしてほしい。

〇支援学級
・特別支援学級を１階に設置してほしい。

②テーマ２「小中一貫教育に期待すること」
〇授業（ソフト）
・理科の実験や音楽の授業等では、楽しい授業を行ってほしい。
・中学校には英語の教員もいるので、英語の授業を増やし、英語の会話力を身につけられる学校にしてほしい。
・歩かなくなっているので、体力がしっかりつくように考えてほしい。
・学習面での向上が期待できるのではないか。

〇教員（ソフト）
・教員の人数を多くしてほしい。できるだけ教員の人数を増やし、教員の負担を減らす。教員の配置を増加してほしい。
・副担任制の導入。
・教員が集まりやすいような（教員がたくさん来てくれる）義務教育学校、小中一貫校にしてほしい。
・少人数のクラスになるようにしてほしい。
・教員免許はなくても、保護者がサポートできるような、体制も取り入れてほしい。

〇行事（ソフト）
・各小学校で行われる行事は継続して実施したい。

・今行われている「お話会」が続けられるようにしてほしい。
・義務教育学校にすることで小学校の入学式、中学校の卒業式がなくなってしまうかもしれない。そのような節目の行事は残してほしい。

〇その他（ソフト）

・上級生がいても、高学年はリーダーシップが取れるような小中一貫教育校にしてもらいたい。
・小中一貫教育校にすることで、中学生だけでなく、小学生も部活動に参加できるケースもある。そのような形で部活動を充実させてほしい。
・小中一貫教育校に対して期待はない。

〇地域（ソフト）

・広田、屈巣、共和地区があり、それぞれの地域に特性がある。その特性を生かし、今までの歴史が続けられるような教育をしてほしい。地域のつながりも今までどおり残り、地元とつながりを活かした学校にしてほしい。
・住民の声が届く仕組みを大事にしてほしい。

〇心の教育（ソフト）

・心の問題がすごくあるので、低高学年の交流が上手くできるようにしてほしい。心の問題に重点を置いてほしい。
・中一ギャップがなくなるといわれているので期待している。
・人間関係が固定しないような工夫をしてほしい。
・いじめの対応を素早くしてほしい。
・教育委員会がしっかりフォローをしてほしい。
・パソコンなどの使い方のモラル、いじめのないクラス、下級生への思いやりのあるようなクラスにしてほしい。

〇ハード面

・太陽光発電を取り入れる、階段の段差、段差を減らす、教室を広くするなどの期待をしている。
・地域の災害拠点として、考えてもらいたい。
・小中一貫教育校になったことで児童生徒が集まるのではないか、住民が増えるのではないか、そういうことを期待している。

C グループ（※発表シートに関しては別紙参照）

①テーマ１「既存校舎の課題」

〇校庭

・グラウンドの緑化や、雑草のメンテナンスなどが必要。芝生化を希望する意見もあり、その場合、野球場や第２グラウンドも必要になるのではないか。

〇空調

・ZEB 化、省エネの推進、空調が特別教室にあるのか。

〇生物

・野菜作り、シンボルツリーは今後も必要である。
・共和小学校ではホタルの飼育をしているので、それは今後も残した方が良い。
・小動物の飼育もあった方が良い。

〇プール

・現状はプール施設があるが、小中一貫教育校になるにあたり年齢幅が広くなるので、どのような形にしていくのか。

〇教室

・圧迫感がある、狭い。

〇トイレ

・築 35 年のわりに古い、和式が多い。

〇地域

・更衣室が男女別、応接室、地域交流、保護者の教員と話せるような部屋がほしい。

②テーマ２「小中一貫教育に期待すること」

〇カリキュラム面（ソフト）

・飛び級、小学校カリキュラムと中学校カリキュラムの統合、小中合同での授業、小学校での教科担任制、小中一緒にスポーツ等の部活動ができる。

〇伝統（ソフト）

・ささらや鼓笛等の伝統を残してほしい。
・外部の方が将棋、コマ、うどん作りなどを教えに来る機会を設けてほしい。

〇今後の小中一貫（ソフト）

・小中一貫教育とは何か、説明を丁寧に教えてほしい。これからのワークショップの中で説明をしてほしい。

〇図書館（ハード）

・「地域に開かれた学校と複合化された図書館」「学校図書室と地域の図書館は別にしてほしい」それぞれの意見がある。

〇通学面（ハード）

・スクールバスの送迎について。

〇施設（ハード）

・学年ごとにスペースを区切ってほしい、理科室が３つ欲しい、更衣室の充実、多目的トイレが欲しい、災害時に障害のある方も施設を使えるようにしてほしい、少人数の教室の充実、男女のトイレ個室化。

〇その他（ハード）

・高齢者交流スペース、ランチルーム、異学年交流スペース、宿直室、生徒の逃げ場所の設置。
・災害対策、避難所としての機能。

〇その他（ソフト）

・転校しやすいようにしてほしい、ふるさと教育、帰りたくなくなるような学校づくり。